

## 【戸塚区】令和3年第2回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和3年 6月 11日 14時 30分 ～ 16時 30分
場 所	戸塚区総合庁舎8階大会議室（Web会議）
出席者	<p>【座 長】坂本勝司議員</p> <p>【議 員：5名】鈴木太郎議員、岩崎ひろし議員、伏見幸枝議員、 中島光徳議員、山浦英太議員</p> <p>【戸塚区：30名】吉泉英紀区長、武井和弘副区長、飯野真理福祉保健センター長、立花千恵福祉保健センター担当部長、林総土木事務所長、岸信行戸塚消防署長 ほか関係職員</p>
議 題	令和3年度個性ある区づくり推進費戸塚区予算執行計画等
発言の 要 旨	<p>岩崎議員：広報よこはま6月号に「内水ハザードマップが改定」とあるが、去年4月に出されたものと比べて何が変わったのか伺いたい。</p> <p>林土木事務所長：内水ハザードマップは環境創造局が作成している。今回の改定は、想定する降雨量をこれまで76.5mmから、1999年に千葉県香取市で観測された153mmに変更したことによるもの。</p> <p>岩崎議員：対象地域の全世帯に新しく作成されるものが行き渡る必要があると思うが、戸塚区ではどのような手法を考えているか。</p> <p>甘粕総務課長：内水ハザードマップについては局で配付することになるが、区でも部数を刷って来庁時に入手していただくことができるよう検討している。</p> <p>岩崎議員：対象となる全ての世帯に届けることはもとより、啓発内容の中身をよく理解してもらうことが重要で、区としてしっかり取り組んでいただきたい。</p> <p>吉泉区長：防災・減災に関する啓発は終わりになき取組だと常に思っている。様々な媒体を用いて情報発信しているが、さらにその範囲や内容、あるいは</p>

は切り口を変えながら、一人でも多くの方に知っていただき、また、周りの方にも伝えていただき、自助・共助の取組として実りある大きなものになるよう、区役所としても全力で努力していきたい。

岩崎議員：ワクチン接種について、戸塚区の65歳以上の高齢者で予約が取れている人と取れていない人は、それぞれどれぐらいいるのか。

甘粕総務課長：戸塚区の集団接種会場で接種する分については把握しているが、個別接種・大規模接種・自衛隊で受けている方は把握できていない。

岩崎議員：予約が取れていない高齢者が一定数いることが見込まれるが、取り残されないようにするために区として何か工夫が必要ではないか。

甘粕総務課長：区役所の相談ブースでも、予約が取れない等の多くの相談をいただいている。局には、そうした実際のご意見も伝え、再度お知らせするなどの方策は取れないかなど確認している。区としても、予約が取れず来庁いただいた方にはインターネットで予約を一緒に取らせていただくなど、取り残されることがないように取り組んでいる。

鈴木議員：高齢者・障害者の暮らしの支援について、高齢者に関する様々な事業があるが、障害児・者に対して区役所ではどのような暮らしの支援をしているのか。

山崎高齢・障害支援課長：地域自立支援協議会の事務局として、基幹相談支援センター、生活支援センターとともに、地域の障害のある方々の生活、福祉の推進に取り組んでいる。区の自主企画事業では、「あったまり場」という精神障害の方に特化した事業を実施しており、気軽に相談や交流ができる場を地域ケアプラザの協力を得て展開している。

鈴木議員：横浜市内に6校しかない特別支援学校の1校が戸塚区にあるが、そこでは保護者が中心となったプロジェクトなども行政の支援なしに行われている。事業の視点を広げ、こうした取組への関与にも注力してほしい。

鈴木議員：W i - F i を整備し、W E B 会議など I C T を活用して業務を効率化しているとあるが、現状、非接触やペーパーレスの取組は不十分。テレワークも進んでいない。新しい生活様式に移行するため、課題意識をもって取り組んでほしい。テレワークについては、どこまでならテレワークでできるのか、一步踏み出した検討が必要。

甘粕総務課長：昨年度W i - F i を整備したが、今後はそれをどう活用し、より効率的で有効な会議や活動につなげていけるか、しっかりと検討して進めなければいけない課題と認識している。

甘粕総務課長：テレワークはこれまでテレワーク用端末がほぼない状況だったが、市全体で進めていこうと、それ用の端末が各区局に配られ、まず責任職から取組課題や使い方の有効性を整理していくことになっている。

鈴木議員：スマホ講座を高齢者向けに開催するのは非常に重要なことだが、通信事業者が提供している教材ではあまりうまくいっていない。緑区の竹山団地の取組がうまくいっているので参考にしてみようか。

岩崎地域振興課長：通信事業者と連携して行う事業や自治会・町内会向けの研修内容はほぼ同じような形になっており、まさにこれからどうしていくかが課題と認識している。区でも区民活動センターが中心になり地域のN P O 団体独自のノウハウを活用できないか検討しており、竹山団地の件についても早速研究したいと思う。

鈴木議員：今年も戸塚区民まつりは中止だが、執行しない予算についてはどうするのか。

甘粕総務課長：中止が決まったばかりで、予算の活用方法についてはこれから検討し、今後報告する。

鈴木議員：地域防災拠点等の対応力強化について、新たな情報受伝達訓練等の支援メニューとは何か。

甘粕総務課長：トランシーバーを活用した情報受伝達訓練を行うことで、

発災直後から、3日後、7日後と段階を追って被災状況に応じて必要な情報を伝達することができるようにする訓練である。

鈴木議員：戸塚区はマンション防災をやっている方だが、マンションは頑丈であり垂直避難を進めることになるが、情報や物資の拠点は防災拠点である。マンションと防災拠点との情報伝達の手法について、統一フォーマットを作成するなど検討していただきたい。

甘粕総務課長：マンションと地域防災拠点の連携は非常に重要だと認識しており、情報伝達の手法については今後検討していく。

鈴木議員：放置自転車対策として、それぞれの駐輪場の定期申込みの待機状況について区役所で把握しているか。

岩崎地域振興課長：道路局で一括管理しているので、区では把握していない。

鈴木議員：駐輪場は全体として空きがないと思われているが、駐輪場によっては空きもあるようだ。放置自転車対策として調査した方がよいのではないか。

鈴木議員：資料25・26ページの区配の表は「その他」が多く、もう少し細分化した方がいいのではないか。

甘粕総務課長：局からのデータなので、いただいた意見を局へ伝える。

山浦議員：PCR検査は戸塚区内全ての病院で受けられるのか。また、区民にはどのように情報を伝えているか。

松本福祉保健課長：全ての病院で受けられるかは区役所では把握していない。医師の診察に基づいてPCR検査を行うことになるが、どこの病院でそうした診察を受けられるかについては、コールセンターや区役所に問合せいただければ一定程度の回答は可能である。

山浦議員：むやみに救急車を呼ばないでほしいという報道があり、体調不良等でも救急車を呼んでいいのか悩んでいる人もいる現状がある。救急車を呼びにくい中で自宅近くではサイレンを小さくする等の配慮は可能か。

岸戸塚消防署長：救急車は2段階で音を分けられるようになっている。道交法上、サイレンを消すことはできないが、住宅地の中では小さくするなど柔軟に対応している。

山浦議員：PCR検査について、ドライブスルー方式で検査を受けられる場所は横浜市内に何か所あるのか。

松本福祉保健課長：市内に8か所と聞いている。場所については非公開。

山浦議員：場所は非公開でも構わないのかもしれないが、ドライブスルー方式で安心してPCR検査が受けられるということを市民の方に知っていただいても良いのではないか。

松本福祉保健課長：ドライブスルー方式でのPCR検査を実施していることの周知が不十分であれば、広報を充実させる必要があるが、診察した医師が判断し申し込む仕組みのため、個人の判断で直接検査を受けることはできない。以前に比べて多くの医療機関でPCR検査や唾液検査等が行われているので、まずはかかりつけの医療機関に、かかりつけ医がいない方については、コールセンターや区役所にご相談いただきたい。

山浦議員：ワクチン接種の取組とあわせて、PCR検査が以前よりも受けやすくなっていることも広報していただきたい。

次に、アプリを用いて道路損傷箇所を市民から通報してもらう取組が始まったが、多くの情報が入ってきたとして、それを直す予算はどうするのか。

塚田土木事務副所長：LINEシステムの導入で、主に小さい穴ぼこ等の情報が入るようになっている。これについては、土木事務所の直営班で即対応することを始めている。今後は道路局とも連携しながら予算配分等検討していく。

山浦議員：対応する優先順位など透明性を明らかにしていくと市民の方からも色々な情報が集まると思うので、検討して頂きたい。

中島議員：ワクチン関係で、戸塚区医師会と区役所で情報の共有等連携をとっていることはあるか。

松本福祉保健課長：区医師会とは日頃から災害医療等で連携している。ワクチン関係では、健康福祉局が主体となるが、区としても接種会場での結果や実績等の報告など様々な情報共有を行い、連携を深めている。

中島議員：仕組みやワクチンの供給体制など不安もあるが、区役所としても医師会との連携を強化し、これから始まる64歳以下の方々の接種に備えて体制を築いていただきたい。

松本福祉保健課長：今後も情報共有に努め、できるだけ早く、多くの方にワクチンを接種いただけるよう努めたい。

中島議員：ワクチン接種の予約が混乱した要因の1つとして、情報が正確に伝わっていない方が多くいたと思う。そういった方々へ情報を正確に伝えていくためには町内会長はじめ地域の方にも手伝っていただくなど、地域との情報共有が重要ではないか。

岩崎地域振興課長：様々な情報を月に1回の市連会・区連会を通じて各町内会長に提供している。区内の連長はじめ単会の会長には個別にも情報提供させていただき、最寄りの地区センター等へ情報をつないでいただいている。区役所としても、引き続き様々な情報を地域の皆様へお伝えできるよう協力を仰いでいきたい。

中島議員：ある地域ではワクチン接種の予約で共助の取組も生まれている。各地域で共助の輪ができるよう仕組みづくりを進めてほしい。

マンション防災について、各マンションの自治会では地域防災拠点に避難せず訓練した事例があるか。また今年度の予定は。

甘粕総務課長：実績は令和元年度で3件、令和2年度にアンケートを実施し、拠点運営委員として参加しているマンションが5件、拠点運営委員として参加検討している所が2件である。

中島議員：地域防災拠点との連携訓練が少しずつ戸塚でも行われているので、ぜひ全ての地域防災拠点で実施していただきたい。

次に戸塚区のスクールゾーン対策について、スクールゾーンの危険箇所マップのようなものを各地域で作成していると思うが、毎回同じようなものを作るのではなく様々な視点を持ち対策することが必要である。子供たちを守るために安全対策について、もう一度見直しを進めていただきたい。

岩崎地域振興課長：年1回開催されるスクールゾーン協議会のみならず、校外委員等の方に自宅から学校までのエリアでどこが危険なのか実際に現地を確認していただき、学校がそれを取りまとめたものを区役所でも頂いている。また、新しい住宅地の建設等により道路の安全状況も日々変化していることから、年1回に限らず地域の会長等から頂いた情報をもとに警察等と現地を確認し危険箇所の把握に努めている。

中島議員：地域の人たちだけでなく、その場所を知らない外部の視点を入れて客観的に見ながら安全対策をしていただきたい。

伏見議員：消防局のマイタイムラインはハザードマップを自分事化できるため有用。区のホームページでもハザードマップを掲載しているが、そこからマイタイムラインにアクセスできるようにするなど、区ホームページをご覧になる方に対して幅広く周知していったらどうか。各町内に対し講演や講習もするようになるので、積極的に活用を進めてほしい。

甘粕総務課長：周知については、ホームページの効果的な活用の検討に加えて、電子媒体では届かない方も多くいることも考慮に入れて検討したいと考えている。

伏見議員：DanceDanceDance@YOKOHAMA 応援事業では、オンラインコンテストのダンス動画の撮影をするにあたり、場所の提供等について区役所で

対応するのか。

岩崎地域振興課長：基本的には自宅等で動画を撮影する形式のため、会場の予約や貸出等は想定していない。9月に毎回20人程度で簡単なダンスの練習会を予定しているので、その場で撮ることは可能かと思っている。

伏見議員：脱炭素社会の形成の推進に関する条例が制定された。エコ普及啓発事業のパネル展にて、国や県の補助金の使い方や申請の仕方のほか、脱炭素化をしていくにあたってのメリットなどを分かりやすくアピールしてはどうか。

武区政推進課長：環境パネル展については、戸塚区内の企業が行っているSDGsの取組について掲示している。脱炭素化の取組については、これから区局が連携して取組んでいくことになると思うが、区としても進め方を検討し事業を考えていきたい。

伏見議員：とつとの芽協働事業のプレママ・プレパパを対象とした両親教室について、コロナ禍ではあるが、孤立化する傾向もあると思うので、感染対策に注意して積極的に行っていただきたい。

上原こども家庭支援課長：地域子育て支援拠点を利用した両親教室は分散型で昨年度の倍の24回実施する。子育て経験者との交流等、安心して子育てできるような施策を今後も進めていく。

鈴木議員：別紙1のコロナ発生状況について、1日あたり、1週間あたり、10万人当たりとベースが違い、分かりにくい。データ活用は見せ方や伝え方、その出自が重要になる。意見のやり取りに関わるため、工夫いただきたい。

鈴木議員：ワクチン接種では、厚生労働省のワクチンナビの情報をもとに予約しようとした人が予約を断られることあるようだ。今後、ワクチン接種を受けたくても受けられていない人に受ける機会を提供することが重要。接種を諦めてしまう人が出ないよう方策を検討してほしい。

	<p>甘粕総務課長：ワクチンナビの情報は必ずしも市民の方が対象ではないので、区役所から提供している情報をご確認いただきたい。65歳以上の個別接種については、必要であれば3階のブースで予約を支援するなどして接種に繋げていきたいと考えている。しかし、区役所では65歳以上の方がどの程度受けられていないのかなどの情報までは把握できないので、局と連携し様々な情報を提供できるよう検討していきたい。</p>
備 考	